

## 1. 日米株式と円/ドルの推移

<日本株>



<米国株>



<円/ドル>



(注)チャートは過去1年

	単位	2011/12/30	2012/5/31	2012/6/8	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	8,455.35	8,542.73	8,459.26	11,408.17	2010/4/5	8,135.79	2011/11/25
NYダウ	ドル	12,217.56	12,393.45	12,554.20	13,338.66	2012/5/1	8,087.19	2009/7/8
円/ドル	円	76.91	78.32	79.49	98.57	2009/6/15	75.35	2011/10/31

過去3年高値・安値はザラ場ベース  
当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

## 2. 日本株市場 先週の振り返り

週初、大きく下げて始まったものの、週末にかけてプラス圏に戻す。

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が+19.01円 (+0.23%)、TOPIXが+8.81ポイント (+1.24%)と週初大きく下げて始まったものの、週末にかけてプラス圏に戻す展開となりました。業種別(東証33業種)にみると、証券・商品先物取引業、金属製品、保険業など26業種が上昇する一方、パルプ・紙、水産・農林業、小売業など7業種が下落しました。週明け4日の日本株市場は、先々週末、欧州債務危機への懸念が高まる中、米国雇用統計が市場予想を下回る結果となったことを受けて米国株市場が急落した流れを受継ぎ、日経平均、TOPIXとも年初来安値を更新するなど大きく下落して始まりました。その後週中にかけては、①G20(20カ国・地域)の当局者が欧州債務危機の対応について協議をしていることが発表されたこと、②ECB(欧州中央銀行)やFRB(米連邦準備理事会)が追加緩和策を実施するとの見方が高まったこと、③本邦通貨当局が為替介入に動く姿勢をみせたこと、④バリュエーションやテクニカル面で売られ過ぎの水準にあったことなどから反発に転じ、日経平均は8,600円台を回復しました。しかし週末8日は、7日に行われたバーナンキFRB議長の議会証言を受けてFRBに対する追加緩和策への期待が後退したことなどから軟調に推移し、日経平均は8,400円台まで下落して引けました。

## 3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	前回
6月12日	Tue	日本	第三次産業活動指数(前月比)	4月 -0.6%
			企業物価指数(国内)(前年比)	5月 -0.2%
6月13日	Wed	日本	機械受注(船舶・電力除民需)(前月比)	4月 -2.8%
		米国	生産者物価指数(除食品・エネルギー)(前年比)	5月 2.7%
			小売売上高(除自動車)(前月比)	5月 0.1%
6月14日	Thu	日本	日銀、政策委員会・金融政策決定会合(15日まで)	
		米国	経常収支	1-3月期 -1241億ドル
			消費者物価指数(除食品・エネルギー)(前年比)	5月 2.3%
6月15日	Fri	米国	ニューヨーク連銀製造業景況指数	6月 17.09
			鉱工業生産(前月比)	5月 1.1%
			ミシガン大学消費者信頼感指数	6月 79.3

当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

## 4. 日本株市場 今週の見通し

ユーロ圏の財務相がスペイン支援を表明したことが好感され、ショートカバー(売り方の買戻し)を原動力として、日経平均は戻りを試す展開を想定する。ただ、週末のギリシャの再選挙を控え、買戻し一巡後は上値が重くなると予想される。

今週の日本株市場は、先週9日にユーロ圏の財務相が緊急の電話会議を開催し、スペインに最大1,000億ユーロの資金支援を実施すると表明したことが好感され、ショートカバーを原動力として、日経平均は25日移動平均(6/8現在8,708円)をメドに戻りを試す展開を想定しています。また、ユーロが一段高するようであれば、このところ連動性の高い日本株も追随する可能性もあると考えています。ただ、スペイン救済の詳細なスキームが決まっていないうえ、週末に行われるギリシャの再選挙では延期観測も出てきているなど、依然として不透明感が強いことから、買戻し一巡後は上値が重くなると予想しています。経済指標では、米国で13日に発表される小売売上高、14日の消費者物価指数、15日の鉱工業生産、ミシガン大学消費者信頼感指数、日本では13日の機械受注が重要と考えています。